

## 大学の世界展開力強化事業（平成26年度採択）事後評価結果

大 学 名	東京大学
整理番号	i-1
事 業 名	日印産官学連携による技術開発と社会実装を担う人材育成プログラム

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価  <b style="font-size: 2em;">A</b>	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント	<p>本プログラムは、日本とインドで産学連携による鉄道技術者育成や、社会インフラ教育、イノベーション教育、技術経営教育及び情報理工教育の各部門における人材育成を目指して実施されたものである。</p> <p>交流実績のある工学分野を中心とする国際化基盤をもつ東京大学とインドの交流相手先大学との間で計画を着実に実施することでインドからの長期留学生を増加させたほか、先方大学のニーズを取組に反映させるとともに、インターンシップを積極的に行い、また参加学生への達成度調査により実情把握にも努めた。さらに、交流プログラムの質の保証を目指して学位論文共同指導に遠隔審査を導入するなど、指導にあたって効果的なツールを取り入れたほか、夏季集中講義の単位認定や GPA の導入、Key Performance Indicators の活用など、多様な手法により質の保証とその向上に取り組んだ。</p> <p>相手大学との交流がインドにおける国際活動の展開にも重要な役割を果たしたことに加えて、本プログラムを通じて学術交流や学生交流がより深化し、覚書を締結したことで授業料を徴収することなく学生の中長期交換留学を可能とした点や、企業との間で経済支援を巡って協議を進めたことは、プログラムの今後の発展に期待が持てる。</p> <p>一方で、受入学生数は目標を上回ったものの、単位取得を伴う日本人学生の派遣については目標を達成できていない。学生の研究テーマがインド側とうまく合致しなかったことや、インドに長期留学するニーズが低かったことが要因として考えられるが、学生への達成度調査の分析結果も勘案しつつ、現在の状況も踏まえ十分に検証した上で、学生目線で多角的側面からプログラムの内容の見直しや再構築等の対応が望まれる。</p> <p>最後に、本事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴うプログラムを実施することで、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与していくことを期待する。</p>